

0.セットアップ手順について

セットアップ手順の概要

ソース管理ツール SMSYS(以下「当アプリ」)はMAGIC開発環境のソースファイルにアクセスし、開発作業の支援を行うことを目的としています。

- ・ソースビューアとして作業中のプロジェクトを並行的に参照できる。また、テキスト情報は全て取得可能で、仕様書等の作成に利用可能とする。
- ・モデル、データ、プログラム等のリポジトリを自動解析し、オブジェクト相互の関連性を表示。
- ・関連するプログラム群を検索したり、SQLクエリを使って目的の箇所を検索可能。
- ・開発版からの起動や、当アプリから開発版への移動がスムーズに行える。

このため、開発中のプロジェクトにアクセスするための環境の設定が前提になります。
インストールはxpa3.2で作成したプロジェクトを開発版で開き、所定のプログラムを実行することで行います。

- ・開発版と連動させる場合は、使用する開発版のバージョン毎にインストールする
→ ユーザ定義開発メニューから起動することにより、自動的に対象のプロジェクトを登録します。
→ xpa 3.2、xpa 3.3、xpa 4.5、xpa 4.6、xpa 4.7 での動作を確認しています。
→ デスクトップに実行版用のショートカットを作成することが可能です。
- ・実行版で起動した場合は、プロジェクトの切り替えを行ったり、新しい任意のプロジェクトを追加することが可能
→ バージョンの異なる他の xpa 3.2、xpa 3.3、xpa 4.5、xpa 4.6、xpa 4.7 のソースを追加して開くことが可能です。
→ MAGIC v10、uniPaaS V1、uniPaaS V1 Plus等のソースも追加して開くことができます。(一部の仕様に制限あり)

解析結果を保存して、変更分のみ再解析を行うことが可能です。

- ・デフォルトはメモリゲートウェイ
→ 特に指定しない限りはメモリゲートウェイで一覧を取得したりプログラムの解析を行います。このため終了時は結果は消えます。
→ DBMSを指定することにより、結果を保存しておくことが可能です。一括処理時は変更のあったプログラムのみ取得することが可能です。
→ SQL系のDBMSを指定することにより、SQLクエリを利用した処理が可能になります。

セットアップの手順、実行までの流れをまとめると下記のようになります。

- ① 目的となるプロジェクトが正常に動作する開発環境を準備
- ② ①の環境で開発版(Magic xpa Enterprise Studio)を起動
- ③ 設定用プロジェクト「SM_SETUP」を開き、インストール用プログラムを実行
- ④ 開発版から起動する場合は、③で設定したユーザ定義開発メニューを使用して目的のプロジェクトから実行
- ⑤ ③でデスクトップにショートカットを作成した場合はそのショートカットを使用し単独のアプリケーションとして実行

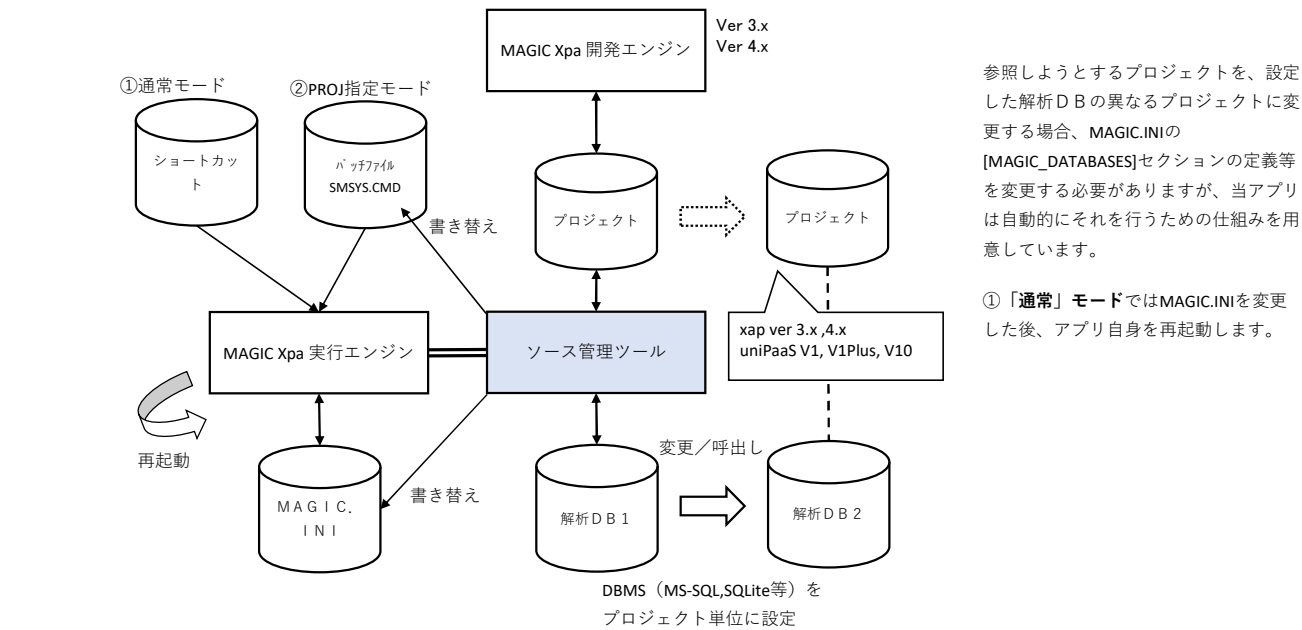
2種類の起動モードと起動方法

当アプリには「通常」「PROJ指定」の2種類の起動モードがあります。
「PROJ指定」モードは起動時にプロジェクトが指定されたモードで、解析データを保存するデータベース等の環境条件を限定しているため、起動後にはプロジェクトの変更ができません。
これに対して、「通常」モードは起動後、別のプロジェクトに変更ができますが、解析データの設定条件が異なる場合はその環境を切り替えるために自ら再起動して処理を行うモードです。
一般的に開発版からプロジェクトを開く場合は「PROJ指定」モード、デスクトップに作成したショートカット等で起動する場合は「通常」モードになります。

2種類の起動モードの違い

	起動後のプロジェクトの変更	解析DB設定の異なるプロジェクトを開く時の動作	起動場所	同一プロジェクトの起動	
通常モード	○	確認ダイアログ表示後、再起動	ショートカット等	×	
PROJ指定モード	×	起動時にセットし新インスタンスで起動 (バッチ「SMSYS.CMD」を使用)	ユーザ定義開発メニュー や起動済のインスタンス	○	

概念図



1.アーカイブの解凍

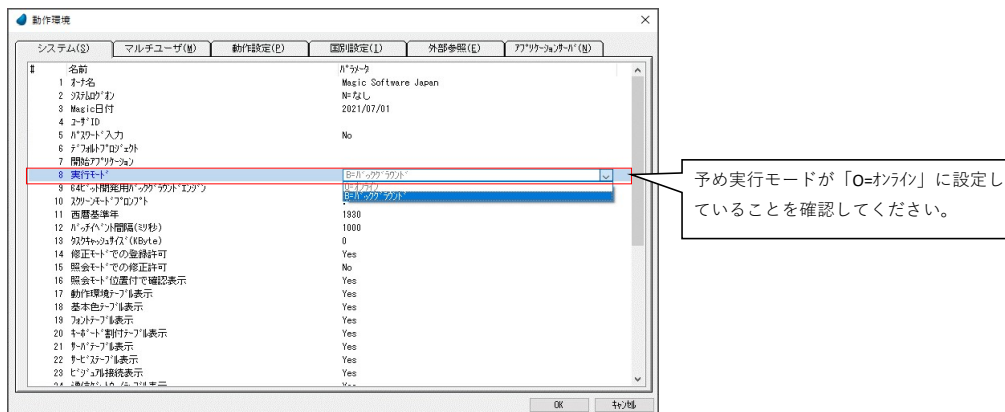
ファイル「SMSYS_X###.zip」を任意のフォルダに展開します。
展開後のフォルダイメージは下記の通りです。

フォルダイメージ

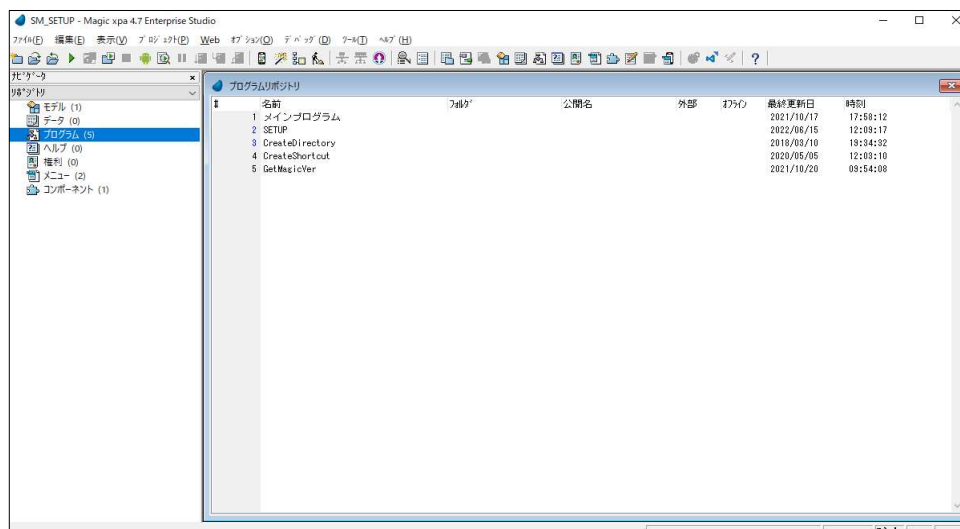
SMSYS_X###	
SM_SETUP	インストール用プロジェクト「SM_SETUP」フォルダ
SM_SETUP.edp	「SM_SETUP」プロジェクトファイル
Data	SMSYSインストールデータ
DEVELOP	SMSYSインストールデータ(開発用データ)
DLL	SMSYSインストールデータ(DLLファイル)
ECF4	SMSYSインストールデータ(xpa 4.x 用キャビネットファイル)
ECF32	SMSYSインストールデータ(xpa 3.2 用キャビネットファイル)
ECF33	SMSYSインストールデータ(xpa 3.3 用キャビネットファイル)
Exports	「SM_SETUP」Exportsフォルダ(空)
Source	「SM_SETUP」ソースフォルダ

2.開発版でのインストール

- ① 動作環境の実行モードが「B=バックグラウンド」に設定されている場合はプログラムが実行できません。
予め、「O=オンライン」に変更して下さい。



- ① Magic xpa 3.x EnterpriseStudio、Magic xpa 4.x EnterpriseStudio (Version は3.2以降) でプロジェクト「SM_SETUP」を開きます。



② プログラムリポジトリの「SETUP」を実行します。

The screenshot shows the 'SM_SETUP' window with the 'ソース管理ツールのセットアップ' (Setup of Source Management Tools) tab selected. The window contains several configuration fields and checkboxes. The '登録フォルダ' (Registration Folder) field is highlighted with a red box. The '登録' (Register) button is visible in the top right corner.

メニュー名 「メニュー表示名」を変更することが可能です。

登録フォルダ 初期値はシステムフォルダの下の「Add_On\SOURCE_MAN」ですが、「F5:ズーム」で任意のフォルダを選択することが可能です。

The screenshot shows the 'SM_SETUP' window with the 'フォルダの参照' (Folder Reference) dialog box open. The dialog box displays a tree view of the file system, with the 'Add_On' folder selected under the 'Magicxpa' directory. The '登録フォルダ' field in the background window is highlighted with a red box.

SMSYS.CMDの起動オプション

起動中のコマンドラインに ①「MAGIC.INI の指定」、②「@ファイル(コマンドファイル)」の指定がある場合は、そのオプションの指定を含めるかどうかを指示することが可能です。
また、ログファイルの表示有無を指定します。

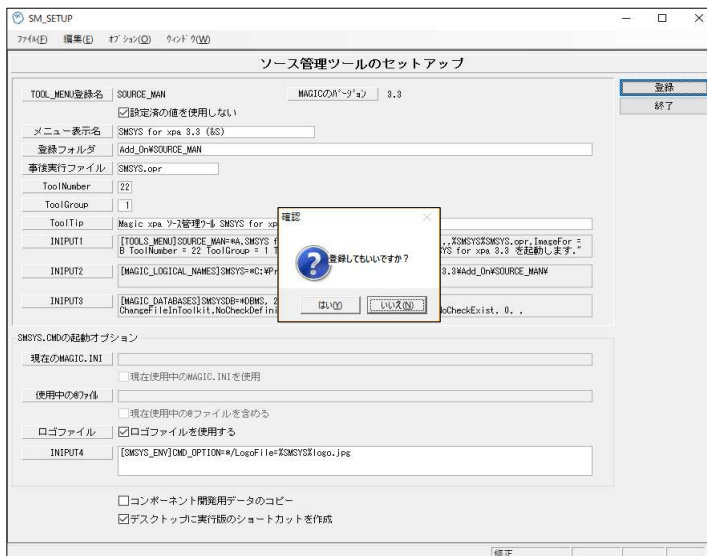
The screenshot shows the 'SMSYS.CMDの起動オプション' (SMSYS.CMD Startup Options) dialog box. The dialog box contains several fields and checkboxes. The '現在のMAGIC.INI' field is highlighted with a red box.

MAGIC.INIは指定しない環境での運用をお勧めします。
何らかの理由でMAGICが再起動したとき、「/INI=」オプションは無視されてしまうためです。

※ それ以外のオプションの指定が必要な場合は直接「INPUT4」を編集することができます。

ショートカット 起動用ショートカットを作成する場合は、「デスクトップに実行版のショートカットを作成」をチェックします。

- ③ 「登録」ボタンを押してインストールを実行します。

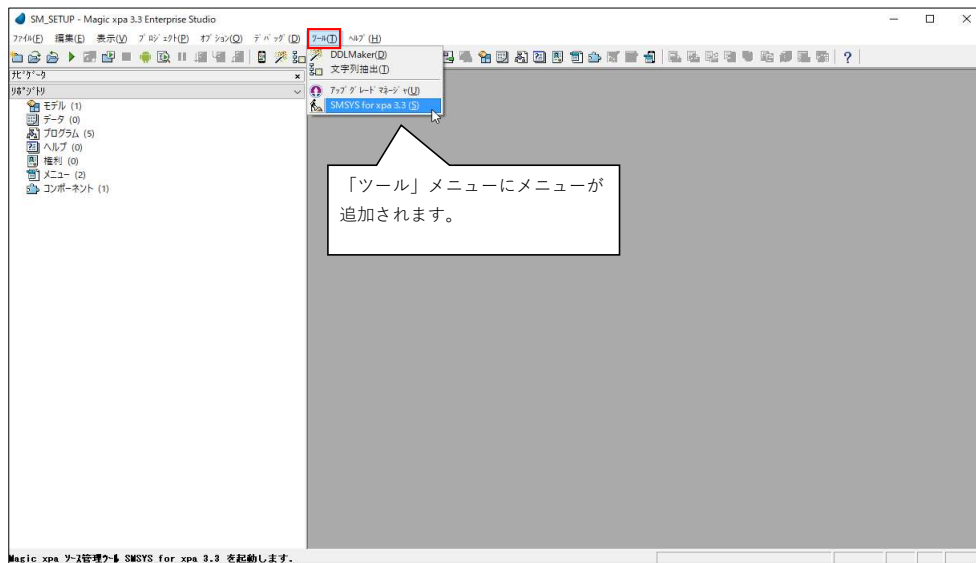


インストールに成功すると下記のダイアログが表示されます。
指示に従ってMagic xpaを再起動してください。

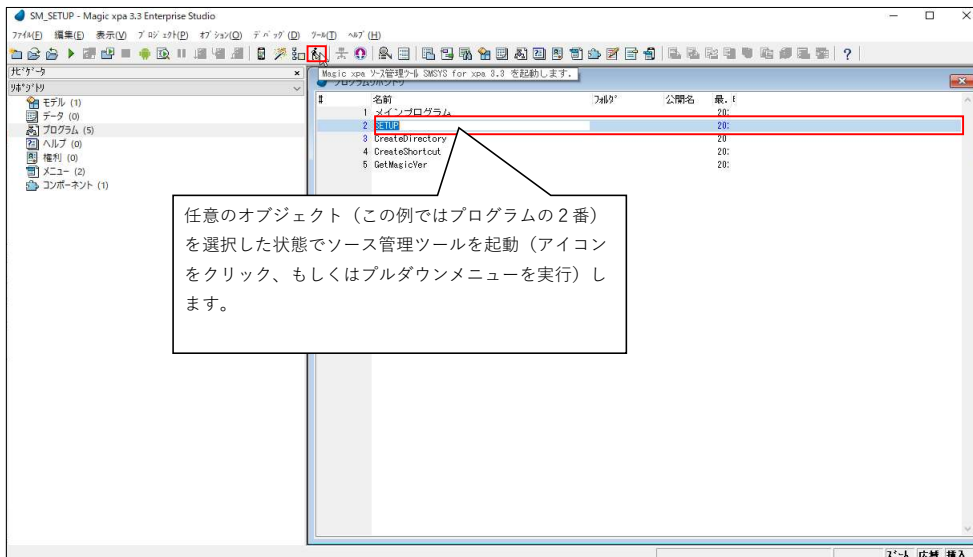


- ④ 動作を確認(ユーザ定義開発メニュー)

イ) 再起動を行った後、任意のプロジェクトを開きます。

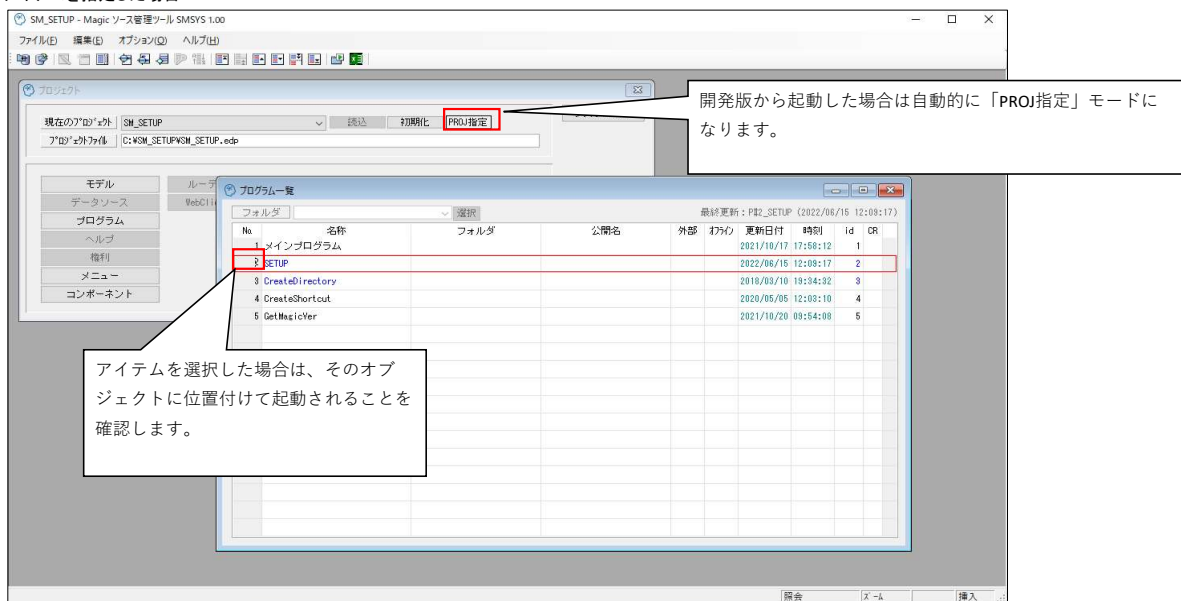


ロ) 任意のオブジェクトを選択し、ソース管理ツールを起動します。

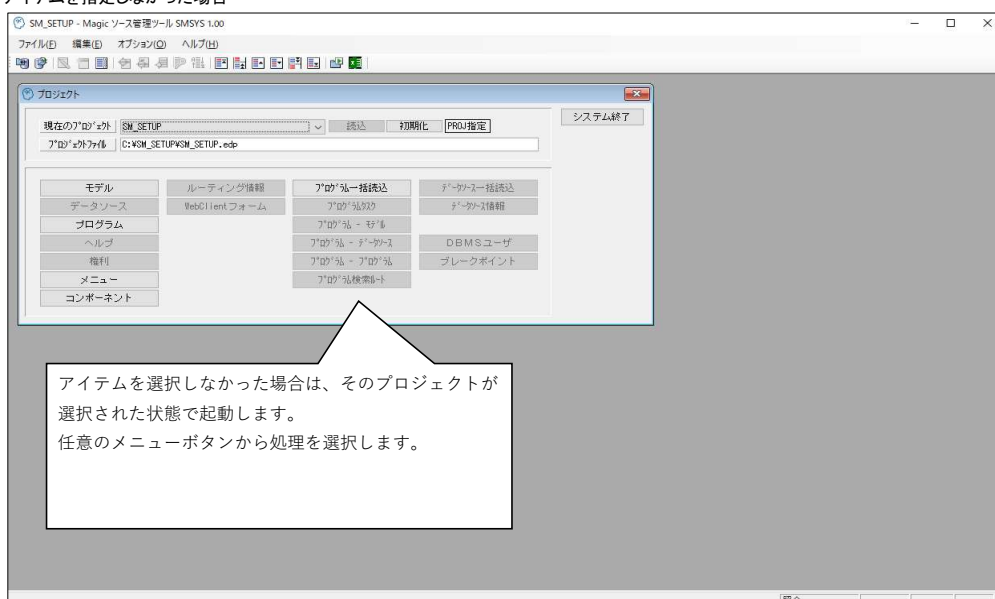


ハ) ソース管理ツールが起動されることを確認します。

アイテムを指定した場合



アイテムを指定しなかった場合

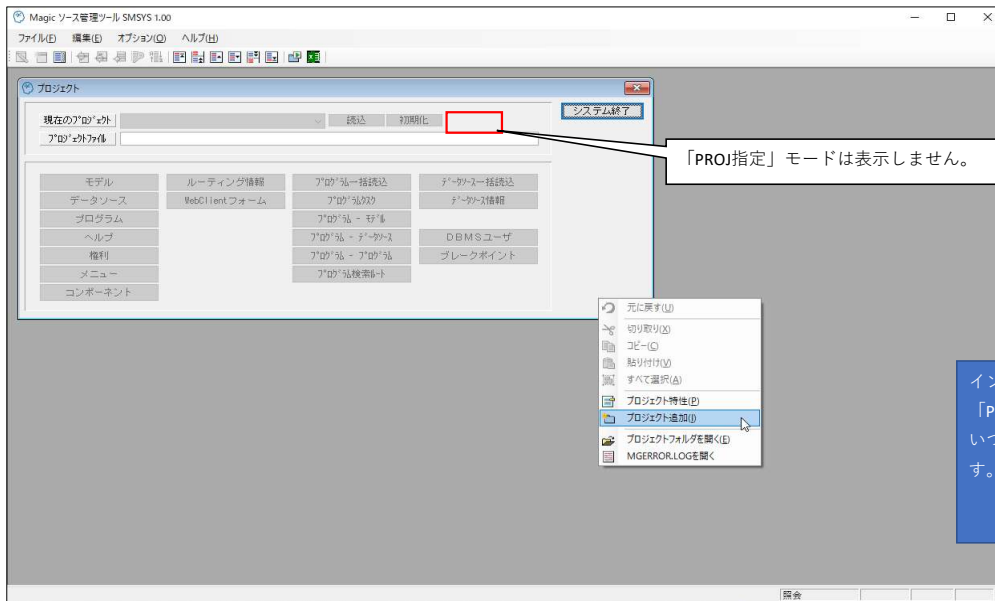


⑤ 動作を確認(単独のアプリケーション)

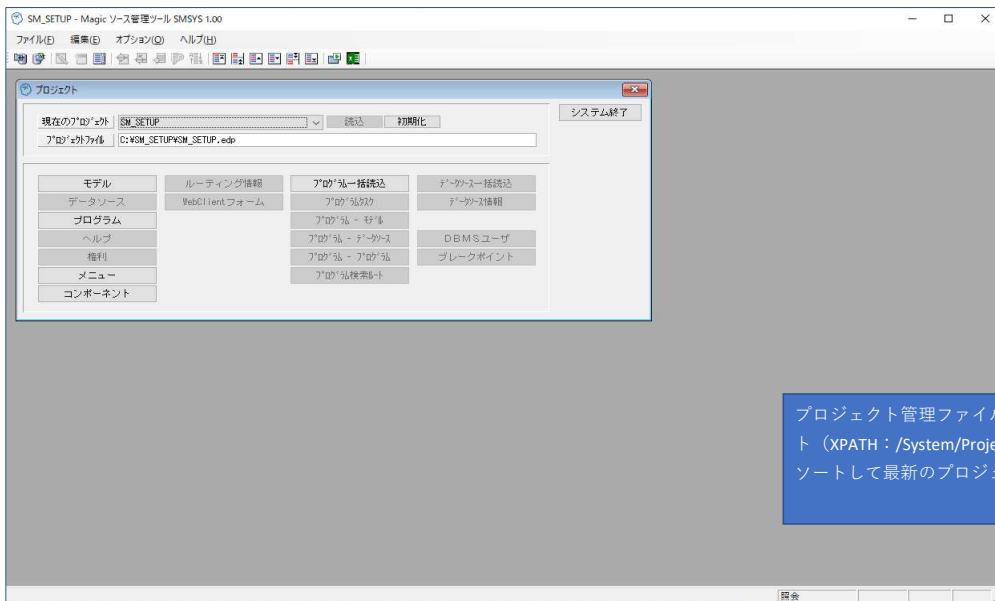
デスクトップにショートカットを作成した場合はダブルクリックしてアプリケーションを起動します。

イ) プロジェクトが未登録の場合

プロジェクトが未登録の場合はコンテキストメニューから「プロジェクト追加」を選択し、ファイルを開くダイアログからプロジェクトファイルを選択します。



ロ) 登録済のプロジェクトがある場合は最後に起動したプロジェクトを表示します。



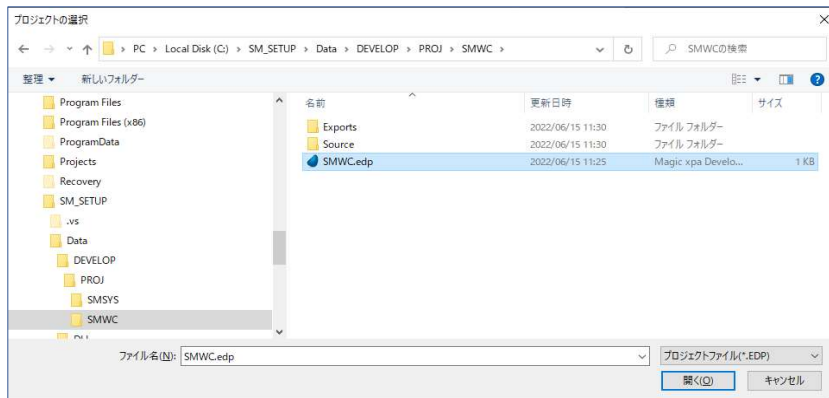
⑥ 基本操作

イ) プロジェクトの追加

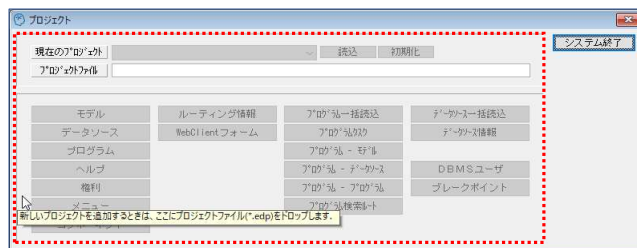
コンテキストメニューから「プロジェクトの追加」を選択します。



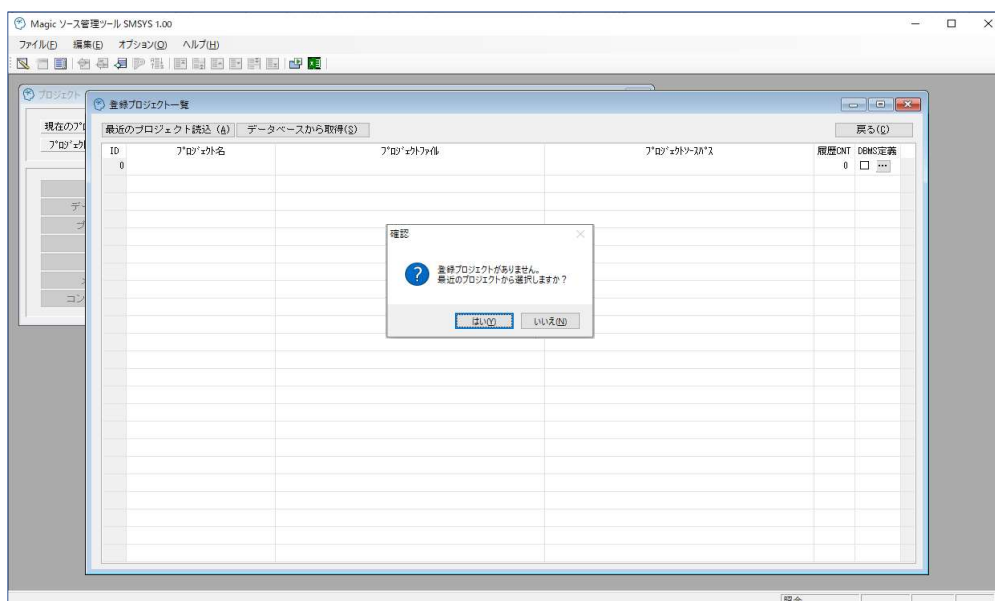
「プロジェクトの追加」ダイアログが表示されるので、プロジェクトファイル(*.edp)を選択します。



※ プロジェクトファイルを下図点線領域にドロップすることにより追加することも可能です。

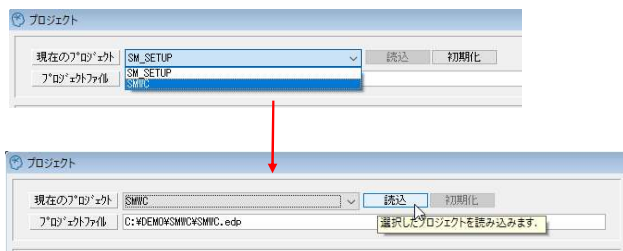


※ ヘルプ/登録プロジェクト一覧を起動すると、開発版で最近開いたプロジェクトの一覧から選択することも可能です。

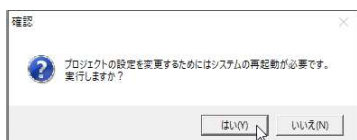


ロ) プロジェクトの変更

「現在のプロジェクト」を変更することにより、プロジェクトの変更が可能です。



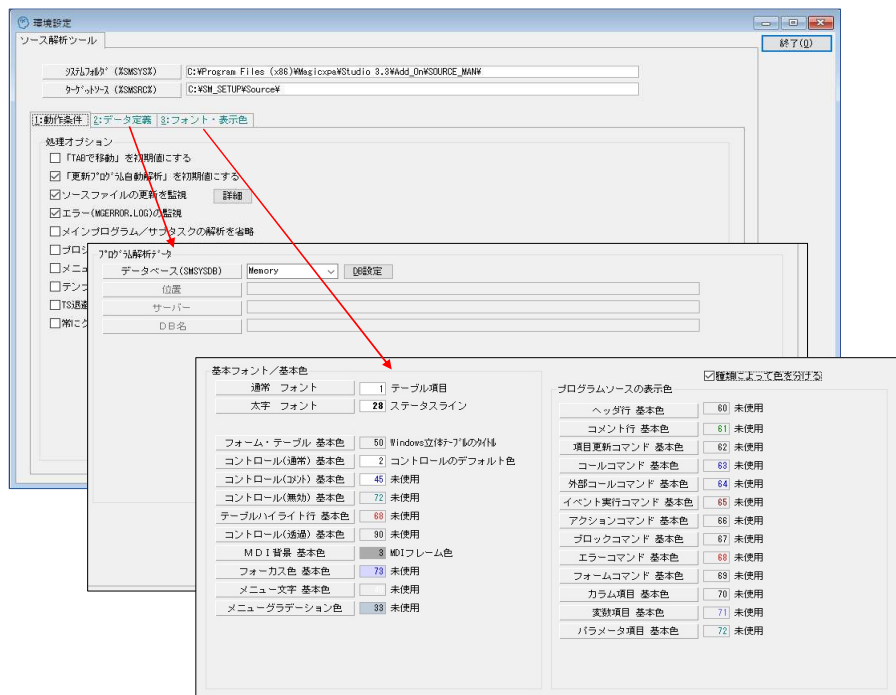
※ このコンボボックスでプロジェクトを変更できるのは、プログラム解析データにDBMSを設定していない場合です。
変更前のプロジェクト、変更後のプロジェクトの何れかにプログラム解析データが設定されている場合は、下記の確認メッセージが表示します。



ハ) 環境設定

プルダウンメニューから「ヘルプ／環境設定(Q)」を選択します。

動作条件の設定(処理オプション)、データ定義(プログラム解析データの設定)、フォントや表示色の設定等、当アプリの環境を設定します。
また、「プロジェクト一覧」ボタンにより、登録済みプロジェクトを確認したり、編集することが可能です。

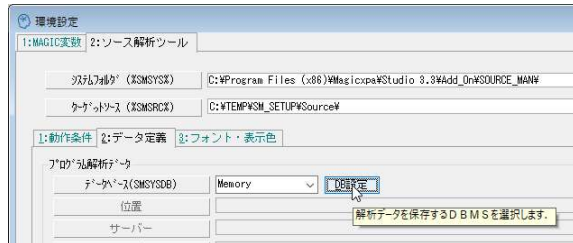


ニ) プログラム解析データのDBMS利用

プログラムの一覧からF5ズームにより、ソース内容を表示しますが、そこで取得したデータをプログラム解析データと呼ぶことにします。
ゲートウェイによる違いは下記の通りです。

No.	選択可能なDBMS	保存／読込	SQLメニュー 利用	DB共有	特記事項 用途等
1	Memory	メニューによる手動操作 (「データの保存」「保存データの読込」)	×	×	規定値 大規模なプロジェクトは制限を受ける？
2	Btrieve	自動	×	○	SQL用の処理がないため若干高速？
3	Microsoft SQL Server	自動	○	○	推奨
4	SQLite	自動	○	×	推奨 可搬性良

環境を設定プログラムのデータ定義タブを開き、「DB設定」ボタンを押します。



データベースを選択します。



選択したデータベース別に位置、データベースサーバー、DB名等を設定します。



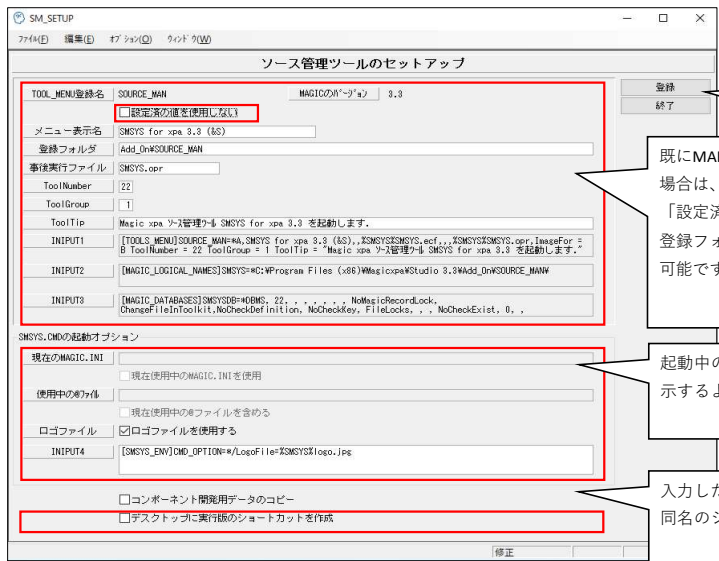
ゲートウェイ別の設定項目は下記の通りです。

No.	DBMS	位置	データベースサーバ	DB名	ユーザー名／ユーザーパスワード
2	Btrieve	保存先パス名	—	—	—
3	Microsoft SQL Server	—	接続先サーバー名	データベース名	SQLサーバ認証時のユーザー名とパスワード
4	SQLite	DBファイル名	—	—	—

⑥ トラブル時の対処

環境の変更等により正しく動作しなくなった場合は、下記のような対処を行ってください。

a) インストール用プロジェクト「SM_SETUP」を再実行する（起動できなくなった場合など）



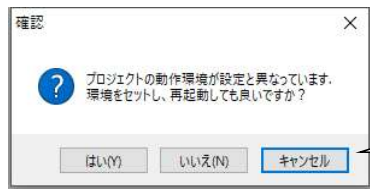
「登録」を実行することにより再インストールを行います。

既にMAGIC.INIの設定値 ([TOOLS_MENU]SOURCE_MAN) がある場合は、その内容を読み込み表示するようになっていますが、「設定済の値を使用しない」にチェックすると無視します。登録フォルダの設定により、インストール先を変更することが可能です。

起動中のコマンドラインを読み取って、その内容を読み込み表示するようになっています。

入力した「メニュー表示名」からファイル名を決定しています。同名のショートカットファイルを更新します。

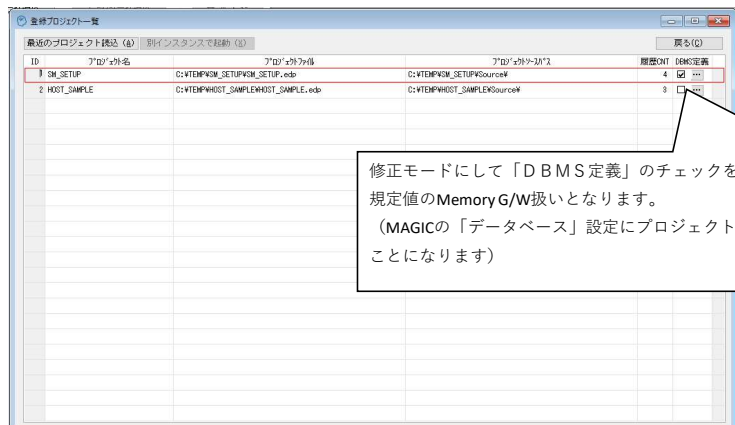
※ MAGIC.INI の [MAGIC_DATABASES]SMBDBSYS の値を書き換えるため、再インストールを行った後は下記のメッセージが表示されることがあります。指示に従い、環境をセットし再起動してください。



「はい」で環境値を更新後、再起動します。（推奨）
「いいえ」で環境値を変えず、そのまま起動します。
→ 起動後、b)の方法で一旦メモリゲートウェイに設定値を戻すことによりこの警告を解消させることが可能です。

b) プロジェクト管理ファイルの編集を行う（特定のプロジェクトが起動できない場合など）

登録プロジェクト一覧を修正モード（「オプション(O)」→「修正(M)」）にし、該当プロジェクトの設定を編集します。



修正モードにして「DBMS定義」のチェックを外すことにより、規定値のMemory G/W扱いとなります。
(MAGICの「データベース」設定にプロジェクトの設定を合わせるようになります)